道　徳　指　導　案

日　時　平成２８年５月１０日（火）２校時
児　童　５年生
授業者
場　所

１　主題名　　「広く，やわらかい心で…」　【Ｂ　相互理解，寛容】

２　資料名　　「すれちがい」（学校図書）

３　主題設定の理由

（１）主題・資料

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編　高学年 【Ｂ　相互理解，寛容】

『自分の考えや意見を大切に伝えるとともに，謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。』

この段階においては，自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから，相手のものの見方，考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また，この時期には，考えや意見の近い者同士が接近し，そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ，相手の意見を素直に聞き，なぜそのような考え方をするのかを，相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。

指導にあたっては，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで，違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや，相手の過ちなどに対しても，自分にも同様のことがあることとして謙虚な心を，広い心で受け止め，適切に対処できるように指導することが大切である。

内容項目【Ｂ 相互理解，寛容】は，中学年においては，今回の改訂で新たに加わった内容項目であり，本校においては中学年段階でまだ設定していない（移行措置期間のため）。高学年においては，計４回の設定となっている（５学年２回，６学年２回の設定）。中学年で実施していない項目であること，高学年で４回設定してあることから，発達の段階や児童の実態を考慮しながら計画的・発展的に指導をしていく必要がある（本時は１回目にあたる）。

今回扱う資料は『すれちがい』（学校図書）である。資料は２人の作文で構成されている。概略は以下のようになっている。

○飯田よし子の作文
- えり子からピアノの稽古に一緒に行こうと誘われる。稽古の時刻を３時か４時のどちらにするか（少し広場で遊んでからという約束も含む），後で電話をしてくれることになり，家で待つ。
- 電話が来ないので，自分からかけるが，おつかいにいって不在だったため，２時に広場で待っているということづけを頼み，広場へ行く。
- 時刻を過ぎてもえり子が来ない。（何をぐずぐずしているのかなあ。自分から誘っておいて電話もないし，広場へも来ない）と思い，一人でピアノの稽古へ行く。
- ３時すれすれにえり子がピアノの先生のところへやってくる。「ごめんね。あのー」といいわけを始めるが，（なによ。約束をやぶっておいて今さら。）と心の中で思い，知らん顔をした。えり子さんとは，あまりつきあいたくなくなった。

○中村えり子の作文
- よし子に電話をして，ピアノの稽古に一緒に行こうと約束をする。時間は後で電話することにした。
- 急な来客でおつかいを頼まれる。ピアノの稽古は４時にしようと決め，電話をするが，誰も出ない。（後でまた）電話しようと思い，スーパーへ行く。
- スーパーがすごく混雑していて，思っていた以上に時間がかかる。急いで家に帰ると，母から「いつもの広場で２時に待っている」という伝言を聞く。あわてて広場へ行ったが，よし子の姿はない。（勝手に２時なんて時間を決めちゃってこまるわ。こっちの都合もあるのにー）と思う。
- しばらく広場で待っていたが，３時近くになり，ピアノの先生のところへ行く。よし子がいたので「ごめんね。あのー」と話しかけると，つんとして横を向かれる。（私だっていろいろわけがあったんだから，しかたないじゃないの。こっちの言い分も聞いてくれたっていいのに。）よし子とピアノの稽古に一緒に行く約束なんかしたくないと思う。

本資料は，２人の人物（飯田よし子，中村えり子）の作文を通して，二人の言動のすれちがう様子が描かれている。また，２人の作文が別々のページに描かれていることから，資料提示の工夫（分割提示，部分提示等）を通して，問題意識を生み出すことも可能な資料となっている。

（２）児童観

省　略

4　内容項目「相互理解，寛容」の系統性

＜中学年＞
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にすること。

⇒

＜高学年＞
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

⇒

＜中学校＞
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，寛容の心をもって謙虚に他に学び，自らを高めていくこと。

＜中学年から発展的に付加された高学年「相互理解，寛容」のキーワード＞

☆謙虚な心：自分自身が成長の途上にあり，至らなさをもっていることなどを考えながら，相手から学ぼうとする姿勢。素直に相手の意見などを受け入れること。

☆広 い 心：謙虚さと寛容さが一体のものとなった時に生まれる心。相手から学ぶ姿勢を常にもち，自分と異なる意見や立場を受け止めることや，相手の過ちを許す心情や態度。

☆立場を尊重：相手の立場に立って物事を考えることに価値があるからこそ，大切にしていかなくてはいけないという思い。

5　第５学年における評価の視点（見取りの場，見取りの蓄積）

※道徳教育との関連～道徳教育全体計画別葉：道徳的学び「相互理解，寛容」に関わって～

＜４月　国語科＞
「要約伝言ゲームをしよう」

＜５月　本時＞
主題名：広く，やわらかい心で…
資料名：「すれちがい」
・広い心（謙虚さ，寛容さ）で相手の立場を考え，自分と異なる意見や考えも大切にしようとする心情を育てる。

＜５月　図画工作科＞
「伝えたい思いや気持ち」

＜６月　特別活動＞
遠足・集団宿泊的行事
「厚岸みどりの学校」

＜９月　国語科＞
「意見こうかん会をしよう」

＜関連する内容項目＞
友情，信頼

＜９月　特別活動＞
健康安全・体育的行事
「大運動会」

＜９月　総合的な学習の時間＞
「学習成果発表会」

＜１１月＞
主題名：
資料名：「ブランコ乗りとピエロ」
・広い心（謙虚さ，寛容さ）で相手の立場を考え，自分と異なる意見や考えも大切にしようとする態度を育てる。

＜１２月　特別活動＞
文化的行事
「学芸発表会」

＜１２月　国語科＞
「雪わたり」

＜１月　国語科＞
「まんがの方法」

＜通年　特別活動＞
児童会活動　　学級活動
「児童委員会」　「学級会」

広い心で立信！

※立信：学年スローガン「りっしん」と関連させたもの。相手の立場に立って考えたり，自分の考えや意見を発信したりすることで，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する態度を育てていきたい。

児童の道徳性の評価方法

①＜中学年から発展的に付加された高学年「相互理解，寛容」のキーワード＞をもとに，各教科，特別活動での具体的な姿を見取り，価値付けしていくとともに，記録化していく。主に，学級・学年集団におけるかかわりから見取ることになるため，「友情，信頼」と関連させながら評価していく。

②個人目標（６月までという設定で，学校目標に準拠する形で設定しているもの）の自己評価や，特別活動における目標と自己評価から成長や課題を見取り，価値付けしたり，励ましたりしていく。

③道徳科の授業における表現（表情，発言，記述等）や『私たちの道徳』の取組等と，上記２点を関連させながら，個に応じた成長の見取りを行う。内面と実践の相互の見取りを通して，個人内評価を行っていく。

授業評価方法

①道徳科教科論６ページ目 4 評価について 及び 本時案（授業評価の視点）参照

６　本時について

（１）本時のねらい

よし子とえり子のどちらに問題があったのか，すれちがいの原因は何だったのかを考え，交流することを通して，人（自分）には自己本位に陥りやすい弱さがあることに気付くとともに，広い心（謙虚さ，寛容さ）で相手の立場を考え，自分と異なる意見や考えを大切にしようとする心情を育てる。

（２）研究とのかかわり（手立ての具体と意図）

導入における「空所」「ずれ」「テーマ」等の提示 ～Ⅰ

★資料提示の工夫：よし子，えり子の作文を片方のみ配付する（列によって，よし子，えり子を分ける）。学級の中で，２人の作文が別々に配付してあることは伝えずに，それぞれ読むよう指示する。

★資 料 提 示 前：「よし子とえり子のどちらに問題があるか考えてください」

導入時，資料名を告げず，資料を配付する。資料を読む視点として，よし子とえり子のどちらに問題があるのかを考えるよう指示する。配付された資料は列によって，よし子の作文，えり子の作文どちらか一方のみ配付するため，問題があると判断する材料がそれぞれ変わってくる。その後の交流により，判断した根拠にずれが生じることで，問題意識の芽生えをねらいたい。

立場や立ち位置を明確にする指導過程 ～Ⅰ－（１）

☆全　体　交　流：「よし子とえり子のどちらに問題がありましたか？」

よし子とえり子のどちらに問題があると考えるか，一方の資料しか見ていない状況で判断を迫る。判断材料はあくまでも片方の言い分のみになることから，「相手の状況がわからないから，どちらとは決められない…」「相手の言い分を聞かずに怒ってしまっているからよし子が悪い」といった意見も多くなることが予想されるが，「約束を破っているからえり子が悪い」といった短絡的な考えも出てくると考えられる。しかし，与えられた情報が違うため，交流にずれが生じてくる。このずれを顕在化し，姿①を目指していく。

中心発問の吟味 ～Ⅱ

★中　心　発　問：「このような問題が起きる原因は何だと思いますか？」

★補　助　発　問：「何があれば，このような問題はなくなっていきますか？」

子供たちがねらいとする道徳的価値についての考えを深めたり，物事を多面的・多角的に考えたりすることができるよう，ねらいに迫る中心発問と，それを補助する発問を吟味する。

まず，よし子にもえり子にも多少なりとも問題があることを交流の中で確認していくとともに，そういった弱さが人間にはあることについての人間理解も図っていく。そして，資料名をここで提示し，俯瞰して一人の問題ではなく，２人の問題として捉え，すれちがいが起こる原因について問うこととする。ここで出てくる考えは，ネガティブなもの（問題解決的思考）になるため，その対となるポジティブな考え（解決志向的思考）についての補助発問を行うことで，思考を深めていきたい（例：C「原因は相手のことを考えていなかった」⇒T『相手のことを考えていればこのような問題は起きないということですか？』⇒C「ただ，考えるというよりも…」）

立場や立ち位置を明確にする指導過程 ～Ⅱ－（１）

☆３　人　交　流：㋑自分の現状への気付き，㋒新たな視点の獲得

状況に応じて，３人での交流の場を設定する。これは，自分の現段階での考えを整理することや新たな視点を得ることを目的とした場合に講じることとする。また，それらが混在した状況で交流を促す場合もある。

☆問　い　返　し：個の発言を全体に意識的に還元する目的，根拠の部分を深める目的
役割取得を促す目的「例：あなたがよし子でも自分に問題があると…」
限定することで思考を広げる目的「例：よし子が我慢すればよかったよね」

状況に応じて，問い返しを行う。特に役割取得を促す問い返しは，客観的・分析的に交流している場合において講じていく。また，「相手のことを考える」等の発言があった場合には，何をどのように考えることが必要なのかといった根拠の部分を深める問い返しを行っていき，それに対する個の意見を全体に還元していったり，取り出して議論の軸にしたりするようにしていくことで姿②を目指していく。

価値の一般化を促す発問の工夫 ～Ⅲ

★基　本　発　問：「２人と自分の共通点はありますか？相違点はありますか？」

★基　本　発　問：「（中心発問時に出てきた板書を確認しながら）**自分が今後大切にしたいこと（心）は何ですか？」**

２人の問題点，すれちがいが起きた原因，そういったことが起こらないために必要なことなどについて中心発問場面で交流した後，２人との共通点や相違点を問うことで，自己の生き方について視点を向けるとともに，今後大切にしていきたいことを問うことで，現在の自分から未来の自分について思考を巡らせ，現在の課題と将来にわたってがんばっていきたいことについて考えることができるようにする。この発問は，Ⅲ－（１）を内包していることから，今回はⅢの手立てとして姿③を目指していく。

（３）本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 肯自己肯定感	評価 個に応じた指導 （△発展的▲補充的）
○配付された資料を読み，よし子とえり子のどちらに問題があるかを考える。 ・よし子　・えり子　・どちらも問題 ・どちらかといえばよし子 or えり子 ○それぞれの立場の根拠を交流する。 ・よし子は相手の話を聞かずに… ・えり子は結果的に約束を破ったから… ⇒ん？話が食い違っているよ…	□資料の題名は伏せ，えり子，よし子どちらか一方の作文（資料）を列ごとに配付する。また，よし子とえり子のどちらに問題があるのかを考えるよう伝える。Ⅰ □よし子，えり子のどちらに問題があると考えたかを聞く。Ⅰ－（１） □ずれに気付き始めた段階で，もう一方の作文（資料）を配付する。	▲資料の内容を読み取るのに時間がかかる児童のために，漢字のフリガナや簡単な状況説明を行うようにする。
目指す姿①：資料への興味･関心や，主題にかかわる問題意識を持つ子供		
○２人の作文（資料）を読んだ上で，よし子とえり子のどちらに問題があるかを考え，交流する。 ☆よし子　・相手の事情を聞かずに怒っているから ☆えり子　・自分が悪いのに，理由を聞いてもらえないからと不機嫌になっているから ☆どちらも　・互いに相手の気持ちを考えていないから ○資料名が「すれちがい」であることを知り，こういった問題が起きてしまう原因を考える。また，それとは逆に，こういった問題が起こらないために必要なことについて考える。 ＜原因＞・相手のことを考えていない ・相手の事情を聞こうとしない ・お互いに不機嫌になって，それ以上何もしようとしていないこと ⇕ ＜必要＞・相手のことを考えること ・相手の立場に立って，怒らずに話を聞くこと ・我慢する心 問い返しで引き出したい考え ⇒すれちがいは誰にでも起こり得ること… ⇒自分がよし子でも同じ対応をしてしまうかも… ⇒自分がえり子なら…と相手のことを考える心 ⇒どちらかが我慢するのではなく，しっかりと伝え合うことも大切 ⇒お互いに相手の状況を想像したり，聞いてあげたりすることが大切	□２人の作文を読んだ段階での判断を問う。 □根拠を交流する中で，行為面と心情面に分けて板書していく。 □状況に応じて，２人だけにしか起こらない出来事なのか，身近にも起こり得ることなのかを問う。 □資料名を告げ，よし子，えり子の個別の問題ではなく，出来事としての問題点に目を向けることができるようにする。 □中心発問を行う。Ⅱ **□中心発問と補助発問を連動させる（繰り返す）ことで，行為面から心情面へと思考を深めていく。** □状況に応じて書く活動や３人での交流場面を設定する。 □問い返しを通して，相互理解，寛容につながる思考を促していく。Ⅱ－（１） □どちらか一方が我慢するといった考えをあえて取り出したり，提示したりすることで，双方向の矢印に目を向けることができるようにするとともに，自分なら…という思考を促す。Ⅱ－（１） **←授業評価の視点①**	▲自分の考えが整理できない児童に対し，出てきた考えの中から納得できるものを選択するよう伝える。 ▲自分の考えが整理できない児童に対し，出てきた考えの中から納得できるものを選択するよう伝える。 △問い返しを通して，出てきた考えを統合した考えや止揚する考えがないかどうかを問い，列挙された原因や必要なことを整理することができるようにする。
目指す姿②：道徳的価値についての考えを深めたり，物事を多面的・多角的に考えたりする子供		
○２人と自分の共通点や相違点について考える。 ・自分も，相手のことを考えずにイライラすることが… ・話を聞かずに相手のことを責めてしまったことが… ○今後，自分が大切にしていきたいこと（心）について考え，道徳ノートに記述する。 ・相手のことを考え，しっかり話を聞くようにしていきたい。相手には相手の事情があって，考えもあるから，何でも自分の考えで判断せず，相手の考えや状況をしる努力をしていきたい。 ・意見が食い違ったり，考え方が違ったりする友達もいるけど，相手の考えを大切にしながら，自分の考えも伝えることができるようにしたい。我慢するだけだと，相手のためにもならないし，自分のためにもならないから。 ○授業後，自己評価アンケートに記入する。	□２人との共通点や相違点を問うことで，２人と同じ立ち位置から自己の生き方（現在を含む過去）を見つめることへとつなげていく。Ⅲ □今後，自分が大切にしていきたいこと（心）を問うことで，本時で考えたこと（板書）を俯瞰して捉え直し，これからの生き方について考えることができるようにする。Ⅲ 肯授業を通して，自分の答え（道徳の授業では，自分の答え（悩んでいる…も含む）を見つけることが大切と伝えている）を見つけたり，他者の意見を傾聴したりしている姿を称賛し，そういった姿と今回授業で考えた内容とが大きく関係していることを伝える。 **←授業評価の視点②** **←授業評価の視点③**	２人の問題点や，すれちがいの原因について考えることを通して，広い心で相手の立場を考えることの大切さや，自分がこれから大切にしていきたいこと（相互理解・寛容という視点）について考えることができている。 【発言・記述・観察】 **※授業評価の視点参照**
目指す姿③：自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深めていく子供		

資料『すれちがい』（学校図書）

1 飯田よし子

きょうは土曜日。お昼少し前、わたしの家に、えり子さんから電話がかかってきた。

「午後からのピアノのおけいこ、いっしょにいこうよ。3時と4時のどっちがいい？　うちはお母さんがでかけるかもしれないから、また電話するわ。もしいっしょにいけるのなら、いつもの広場で少し遊んでからいこうよ。」

「ええ、いいわよ。」

わたしはお昼ご飯を食べて、2階のへやでしばらくピアノの練習をした。そのうち1時になったので、下へおりた。居間で母がテレビを見ている。

「えり子さんから電話かかってきた？」

すると母は、少し間をおいてから答えた。

「おとなりにちょっといっていたんだけど、かかってこなかったみたいよ。」

（ふうん、えり子さん、どうしたのかしら。早めに電話してくれてもいいのに。）

と思って、マンガの本を読んで少し待っていた。けれど、どうも落ちつかないので、こちらから電話をかけてみた。すると、えり子さんのお母さんが電話口に出て、こういった。

「えり子は今、ちょっとスーパーへおつかいにいっているの。でも、すぐに帰ってくると思うわよ。」

時計を見ると、1時半だった。30分もあれば、えり子さんもスーパーから帰ってくるだろうと思い、

「それじゃあ、2時ごろいつもの広場で待っていますから、えり子さんにくるようにいってください。」

と、ことづけをたのんだ。

2時になったので、自転車で約束の広場にいってみた。広場のあちこちの花だんに、真っ赤なばらがきれいにさいていた。まだ、えり子さんのすがたは見あたらない。わたしは、いつもえり子さんがやってくる、けやき通りのほうをじっと見ていた。5分、10分、20分。——時間はどんどんすぎていく。けやき通りに人かげが見えるたびに、

（今度はきっと、えり子さんだ。）

と、むねをおどらせるが、そのたびにがっかりする。

（何をぐずぐずしているのかなあ。スーパーからは、もうとっくに帰ったと思うけど。じぶんからピアノのけいこにさそっておいて、電話もしないし、広場へもこない。）

3時にはまだ時間があるけれど、もう、ひとりでピアノのけいこにいこうと決心した。

自転車のペダルをぐんぐんふんで、アスファルトの道を飛ばした。

ピアノの先生のところでは、まだ3時前なのでしばらく待っていた。すると、3時すれすれになって、えり子さんがやってきた。

「ごめんね、あの——。」

と、いいわけを始めたけれど、わたしは、

（なによ。約束をやぶっておいて、今さら。）

と、心のなかで思い、知らん顔をしていた。もう、えり子さんとは、あまりつきあいたくなくなった。

2 中村えり子

きょうのお昼少し前、よし子さんの家に電話をして、午後からのピアノのけいこにいっしょにいくやくそくをした。時間は、わたしのほうで電話することにした。

母とお昼ご飯を食べているところへ、ひさしぶりに遠くの親せきのおじさんたちが、たずねてきた。

「えり子、悪いけど急いでスーパーへいって、お肉とたまごと夏みかんを買ってきてよ。」

と、母がちょっとすまなそうにいった。

（ピアノのけいこは、4時からにしよう。）

そう思って、よし子さんの家に電話をしたら、だれも出なかった。しばらく待っていたけど、急いでいるので、「後でまた」と思い、電話を切って外へ飛びだした。

スーパーに入ったら、土曜日の午後のせいかとてもこんでいた。人の間をかき分けるようにして、品物をかごの中に入れる。あせがひたいににじみ出ていた。急いでレジの所へいくと、どのレジもいっぱいで、15、6人位ならんでいた。

（こまったなあ。よし子さんに早く電話しなくちゃいけないけど、電話をかけていると、よけいおそくなっちゃうし——。）

やっとお金をはらって外へ出たときには、もうだいぶ時間がたっていた。

家に帰ると母が、かべの時計を見ながらいった。

「おそかったわね。よし子さんから電話があってね、ピアノのけいこにいくから、いつもの広場で2時に待っているそうよ。急いでいきなさい。」

「わあ、たいへん。スーパーがこんでいて、なかなか順番こないんだもん。すぐにいかなくちゃ。」

そう早口でいい、あわてて外に飛びだす。けやき通りの道を、全速力で走って広場へ向かった。ばらの真っ赤な色が目に入ったが、よし子さんのすがたは見えなかった。

（先にいったのかなあ。かってに2時なんて時間を決めちゃってこまるわ。こっちのつごうもあるのに——。）

思わずわたしは、そばにころがっていたジュースの空きかんをけった。しばらくベンチにこしかけたり、立ったりして待っていたが、3時近くになったので、ピアノの先生の家へと向かった。

先生の家で、よし子さんに会ったので、

「ごめんね。あの——。」

と、話しかけたら、ぷいとして横を向かれてしまった。

（わたしだって、いろいろわけがあったんだから、しかたないじゃないの。こっちのいい分も聞いてくれたっていいのに。）

もう、よし子さんといっしょに、ピアノのけいこにいく約束なんか、したくないと思った。